

松本市基幹相談支援センター会議・研修会報告

会議・研修会名 令和8年度第1回しごと部会	開催日：令和8年4月30日（木） 時 間：16:00～17:00
参加者構成機関名 障がい者就業・生活支援センターしえるば、長野県寿台支援学校、松本公共職業安定所、就労継続支援A型事業所 toivo、就労継続支援B型事業所あいわーくす、就労移行支援事業所 workfit ハートフル、ぴあねっと・まつもと(欠)、松本市役所障がい福祉課 松本市障がい者基幹相談支援センター(事務局) SAKURA 松本中央センター(県就労支援部会)	

会議内容 令和8年度第1回しごと部会 議事録 I. 昨年度のしごと部会の振り返り しごと部会は、昨年度年/4回開催。今年度は、以下の視点を中心に検討を進める方向性が確認された。 <ul style="list-style-type: none">共通する課題については、他専門部会との連携発信や周知の現状確認一般就労に至るまでの流れやプロセスの共有 II. 協議事項 (1) 構成員の変更について <ul style="list-style-type: none">令和8年度より部会長および副部会長が変更となった。 (2) 県自立支援協議会の就労支援部会より活動報告 県就労支援部会における今年度の方向性について共有が行われた。 主な内容は以下のとおりである。 <ul style="list-style-type: none">人材育成を目的とした研修会の開催(長野大学との連携)市部会との連携および情報共有各圏域における人材確保の現状や課題整理後方支援体制や意思決定支援の状況確認と共有 地域ごとの課題を整理しながら、広域的な連携を強化していく方向性が示された。 (3) 就労支援の流れを見える化することについて <ul style="list-style-type: none">障がいのある方や家族が、「どこに相談すればよいか」「どのサービスが適しているか」を理解しにくい状況がある。就労アセスメントの結果が十分に共有・活用されていない。

- B型からA型、移行支援、一般就労への流れが見えづらく、支援経路が停滞している。
- 利用者本人が将来像を描きにくい状況がある。
- 各事業所の取り組みや特徴が地域に十分伝わっていない。
- ホームページや紙媒体による周知について検討が進められているが、具体的な運用方法は未整理である。
- 事業所説明会等を実施していても、必要な当事者や家族へ情報が届きにくい。
- 「知ってもらうこと」を目的とした地域向け企画や合同連絡会の必要性等が挙げられた。

III. 今年度の専門部会の取り組みについて

協議の中では、就労継続支援A型・B型・就労移行支援・ハローワーク・学校・相談支援機関など、それぞれの立場から現状や課題が共有された。その中で共通して挙げられたのは、「事業所同士の横のつながりが弱いこと」「利用者や家族が相談先やサービスの違いを分かりづらいこと」「一般就労までの流れが地域全体で十分に共有されていないこと」等が挙げられた。

これらを踏まえ、今年度は以下の視点を中心に取り組みを進めていく方向性が確認された。

- 就労系事業所同士の連携強化
- 各事業所の特徴や役割を知る機会の創出
- 本人・家族・支援者に向けた分かりやすい情報発信
- 当事者が将来の働き方を具体的にイメージできる仕組みづくり
- フォーラムや説明会等を通じた普及啓発の検討

特に、「支援者が分からなければ、当事者はさらに分からない」という意見が共有され、まずは支援機関同士が互いを知り、地域全体の流れを理解することの重要性が確認された。

また、「知ってもらうことが、つながりのきっかけになる」といった意見も出され、今後は連絡会やフォーラム等を通じて、事業所単体ではなく地域全体として情報発信を進めていく方向性が共有された。

IV. 次回検討内容について

専門部会内で検討した方向性を基に、年度計画を立案する。

以上